

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3590300038		
法人名	株式会社 VAN		
事業所名	海に見えるグループホームしおさい		
所在地	山口県山口市秋穂西 3317番地 の 1		
自己評価作成日		評価結果市町受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>自然環境に恵まれ、24時間静か。                  近隣の方も入居されており、近所の方々が時々面会に来られる。                  「しおさい祭り」も地域の協力を得て行っている。                  イベント時には2ユニット間の仕切りを取って大広間にする。普段からユニット間の行き来・交流がある。                  2ヶ月毎に発行している「しおさい便り」に、入居者の生活の見える写真を掲載しており、家族に好評。                  時々、職員のピアノの生演奏で、昔の流行歌、唱歌、童謡をみんなで歌っている。                  訪問看護ステーションと契約し、医療連携体制を整えている。                  (週1回の定期訪問・緊急時の24時間相談体制等)</p>
---

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年12月19日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>三食とも事業所で食事づくりをしておられ、利用者も調理や盛り付け、配膳、下膳、台拭き、お盆拭き、食器洗いなど、一人ひとりが自分で出来ることを職員と一緒にされています。利用者の好みを聞かれたり、誕生会や季節行事に合わせたメニューを工夫されたり、外食の機会をつられるなど、利用者にとって食事が楽しいものになるように取り組まれています。新聞を読む、広告(チラシ)を見る、テレビを観る、ピアノに合わせて歌う、ぬりえ、貼り絵、活け花、縫い物、編み物、ラジオ体操、リハビリ体操などをして楽しみ、布団干しや掃除、食事の準備、後片付け、草取り、レクリエーションの司会など、利用者の得意なこと、したいこと、出来ることの場面を多くつくり、張り合いや喜びのある毎日を過ごせるように支援しておられます。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・事務所の目立つ場所に掲示しているが、全職員への周知は不十分。理念が長すぎて判りづらいという意見あり。 理念に基づいた介護に心掛けているものの、介護度の変化に伴い、難しい部分も出てきている。	地域密着型サービスとしての事業所理念をつくっている。理念の実践に向けて、管理者は日々の業務の中で気づいた職員の対応について理念に照らし合わせ指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	しおさい祭りや散歩の際に、交流はあるものの、挨拶程度で終わってしまうことが多い。様々な来訪ボランティアとの交流はある。自治会に参加し、回覧を回してもらったり、地域の行事等の案内をもらったりしている。	事業所は今年から自治会に加入しており、地域の神社の祭りの手伝いに職員が参加したり、利用者も地域の祭りに参加するなど相互に交流する機会が増えている。事業所の防災訓練や事業所主催の祭りに多数の地域の人の参加があり、ボランティアの訪問や野菜の差し入れ等で地域の人が気軽に立ち寄るなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議に参加。 認知症理解やグループホームの役割について、紙芝居を作成し、紹介した。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に声かけし、自己評価をお願いした。評価の意義についてはあまり理解されておらず、回答が無かったり、わからないと答える職員もいた。	自己評価書を各ユニットに配付し、職員に書き込んでもらうほか、聞き取りをして、各ユニットの計画担当者と管理者がまとめているが、職員は評価の意義や各項目の理解が不十分であり全職員での取り組みとなっていない。前回の外部評価結果については、記録様式の変更等、具体的に改善に取り組んでいる。	・評価の意義や評価項目の理解と全職員での取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、サービスや評価についての報告をし、頂いた意見については、次の会議で取り組み状況の報告を行っている。	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況や活動報告、外部評価結果について報告をし、危険防止や感染症、火災予防の取り組み、避難訓練等について意見交換を行い、運営に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者レベルでは行っているが、現場職員への情報共有が不十分である。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の出席がある他、市担当課とは、電話や出向いて、利用者に関する相談や介護保険に関する情報等を得るなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	見えるグループホームのおき 項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを設置し、身体拘束をしないケアが行えるよう話し合いを行っている。危険防止のためやむを得ないケース(夜間の柵の使用等)については、家族と相談し対応している。 門扉を出ると道路で、大型車輛の行き来も多く、徘徊・離所の際の交通事故が懸念されるため、常時玄関の施錠をしている。	マニュアルにより、年1回研修を行い、職員は理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。事業所が道路に面していることから、玄関は安全に配慮して終日施錠している。	・鍵をかけずに自由な暮らしを支援する工夫
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が学ぶ機会を持っていない。  優しい声かけと傾聴を心掛け、ひとりひとりの職員が、虐待防止に努めている。 職員間の意識差はみられる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度について、関係者と連携し、活用できるよう支援を行っている。 制度の利用を通し、職員の理解は進んできているものの、一部の職員にとどまる。 職員全員が学ぶ機会を持っていない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っており、疑問点などについては、十分な説明を心掛けている。 内容の変更の際には、書面にて案内を行う。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見箱を設置。 電話や面会時の家族からの意見や要望については、職員で話し合いを行っている。 社協の介護相談員については、全家族に案内を送付し、ポスター掲示している。	運営推進会議や来訪時、電話、手紙などいつでも意見や要望を表せる機会をつくっている。職員の電話対応や物品購入等についての意見があり運営に反映させている。苦情・意見箱を設置し、相談や苦情の受付体制、処理手続きを定め周知している。	

自己	外部	見えるグループホームのおこい 填 自	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度のミーティング程度で、意見を聞く機会としての場は無い。気付いたことについては随時、話をする事は可能。内容にもよるが、反映されることは少ない。	管理者は日常の業務の中で職員が意見が言いやすいように心がけている。月に一度、数名で会議を開催しているが、全職員の参加ではなく、意見を聞く機会の確保までには至っていない。	・全職員から意見を聞く機会の確保
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務態度や、利用者への関わりなどの評価を誰がどのように行っているのか、評価基準が不透明。 個々の職員の事情に応じ、働きやすい勤務体制になるようには、配慮されている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	セミナーパークで行われる研修への参加のみで、希望は多いが、実施が少ない。 勤務体制的にも研修時間の確保が難しい。 ケアの方法も、個々人の職員のやり方に任されるため、ばらつきが大きく、OJTも限界がある。	外部研修には1名が参加して、復命書を回覧し職員間での共有を図っている。内部研修の位置づけはしていない。日常のケアの中でその都度、管理者が指導している。	・研修の機会の確保と研修内容の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	希望は多いが、実施は無い。  個々の職員の努力に任されている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくり座って話を聞く、安心できるような声かけを行う等、その人のペースで早く雰囲気になじんで頂ける様努めている。		

自己	外部	の見えるグループホームとのお互い 填 自	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話連絡やお手紙で、日々の様子等お伝えしたり、要望等の聞きとりなど、意識して努めている。			
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に面接等行っているが、家族、本人が今必要なサービス(当施設に限らず)の紹介までには至っていない。			
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に家事を行ったり、手伝いをして頂いたり、相互に支え合い気遣い合う関係にある。 利用者個々の得意分野に応じて、役割を担って頂いている。			
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員を中心に、家族との関係づくりを心掛けている。ケアプラン更新の際など、定期的に近況をお知らせし、御家族と一緒に支援方針を考えていくようにしている。			
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの際、旧道や自宅付近を通ったり、馴染みの地名を話題にする等、している。	知人や友人の訪問、電話や年賀状の支援、家族の協力を得て馴染みの美容院や商店への買物等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。		
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、ホールで過ごされる方が多く、利用者相互で会話を楽しんだり、助け合ったりもしている。 状態を見ながら職員が介入し、孤立しがちな方や、緊張場面への声かけを行っている。			

自己	外部	の見えるグループホームのおこい 填 自	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	個人的にお見舞いに行く程度。 積極的な継続支援は行っていないが、相談があれば、適宜応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当を中心に、ひとりひとりの思いを把握し、出来る限り本人本意の支援ができるよう努めている。	入居時に家族から聞き取りをし、その後、家族や友人の来訪時に得た情報等を入居後情報シートに記録して活用するほか、担当職員を中心に夕食後から就寝前の時間を利用者にと寄り添い、思いの把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や、関係者からの聞き取りを行ったり、日々の会話の中から、把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態の把握に努めている。 情報の共有・状態の変化の引継ぎ等、職員間の連携について課題が残る。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時には、ケース会議を行い、また、本人・家族の思いの確認を行って、それぞれの意見が反映された計画作成に努めている。	月1回、ケース会議を行い、把握している本人や家族の意向や主治医の意見を参考にし、介護計画を作成している。1ヵ月に1回のモニタリングや6か月ごとの見直しを実施するほか、利用者の状態に応じて見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、情報共有を図っている。 バイタルやチェック項目については、経過の確認がしやすいよう、記録用紙の様式の見直しを行った。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに、できるだけ柔軟に対応できるよう努めているが、利用者の重度化に伴い、介護の手間を要するものについては、十分に対応できていない。		

自己 部	外海の見えるグループホームとおさい 填 自	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際の地域交流はあるが、日常的な地域資源の活用はできていない。 しおさい祭り際には、地域の民生委員や老人クラブの方が、出し物を企画して下さい。 地域の祭りや、御大師参りにも参加。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者は訪問診療利用。隔週の訪問及び、本人の状態による随時受診を行っている。 家族の希望により、地域のかかりつけ医を受診されている利用者についても、必要に応じて連携し、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者のほとんどが協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医による2週間毎の往診の他、受診の支援をしている。協力歯科への受診や訪問歯科による口腔ケアや嚥下訓練を行っている。医療連携体制を取るなど利用者が適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約。毎週(隔週で各棟)の訪問、24時間相談体制を整え、訪問診療と併せて、相談機会は増えた。夜間の急変等、状態の判断や、連絡・相談するタイミングについては個々の職員に任されるため、悩むことが多い。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、病院関係者との情報交換・連携に努めているが、十分とはいえない。 必要時の連携にとどまり、事前の関係づくりまでには至っていない。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針等、話し合いに至っていない。 代表者・管理者・職員間で、思いに相違があり、共有ができていない。	重度化や終末期に向けた事業所の指針があり、家族に説明している。職員間でも共有出来るよう話し合いを重ねている。実際に重度化した場合は関係者で話し合い支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットや事故報告を活用し、事故防止に努めているものの、注意喚起に留まり、具体的な取り組みにつなげていない。 年に1~2回、消防訓練と併せて、応急処置等、訓練の機会はある(一部職員)が、実際の対応には不安が残る。	ヒヤリハット・事故報告書に発生状況や対応処置、その後の経過を記録し、ミーティング時に職員間で話し合い、事故防止に努めている。AEDの取り扱いや誤嚥時の対応について訓練を実施しているが、すべての職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・すべての職員を対象に応急手当や初期対応の定期的訓練の実施

自己	外部	見えるグループホームのおき 填 自	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署に依頼し、消防訓練を実施。全職員ではなく、対応能力には個人差が大きい。 運営推進会議の際、地域防災の話し合い、災害時の協力要請等行っているが、管理者レベルに留まり職員への周知・地域連携には至っていない。	年2回、夜間の火災を想定した消火訓練、避難訓練、通報訓練を地域住民の参加を得て実施している。運営推進会議で災害対策について話し合い、災害時の連絡網に地域の人に入ってもらうなど、地域との協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	配慮して対応しているが、余裕が無いときなど、声かけや対応にムラが出ることもある。 職員による意識差も大きい。 プライバシーの確保についても、配慮しているが、誤って他室に入ったり、使用中のトイレを開けようとする方などの対応に苦慮している。	人格の尊重とプライバシーの確保について理解し、利用者の尊厳を大切にして、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように心がけている。不適切な対応や言葉かけがあれば管理者が注意をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、本人の思いの表出が自由にできるような関係づくりに努めている。 個々の能力に応じて、自己決定を行えるよう支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での集団生活の中で、一定の限界はあるものの、対応可能な範囲で、本人の希望を尊重して支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各人の好みを尊重し、支援を行っている。 個々の能力に応じて、自分で服を選んだり、着替えたりされる。化粧をされる方もいる。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食の食事は、台所で手作りしている。 食事の準備や片づけは、利用者と職員、一緒に行っている。手伝える利用者は限られているが、音や匂いなど、食事作りの雰囲気は感じられる。	三食とも事業所内で食事づくりをしている。利用者は調理、盛り付け、配膳、下膳、台拭き、お盆拭き、食器洗いなど一人ひとりが出来ることを職員と一緒にしている。利用者の好みを聞いたり、誕生会や行事に合わせたメニュー、外食等、食事が楽しみなものになるよう支援している。	

自己	外部	見えるグループホームのおこい 填 自	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて、刻み食、ミキサー等、食事形態を工夫、摂取量を見ながら高カロリー飲料等、補食も活用している。水分補給については、定期的に声かけを行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じて、口腔ケアの声かけ・見守り及び介助を行っている。ケアの実施が難しい方については、訪問歯科を活用して、口腔ケア及び職員への助言をしてもらっている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し、排泄パターンを把握して、定期的な声かけ・トイレ誘導を行っている。一人ひとりの能力に応じて、難しい部分(場所の案内・座る位置・清拭等)をフォローし、トイレで排泄できるよう支援を行っている。	一人ひとりの排泄表を活用して、排泄パターンを把握し、その人に合わせたさりげない声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動を勧める等、予防の働きかけは行っているが、理解の難しい利用者への対応等、十分ではない。排泄の状況を見ながら医師と相談し、緩下剤等にて対応している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則として日時は決まっているが、その日の状況や利用者の希望に応じて、臨機応変に対応を行っている。入浴拒否が強い方に対し、入浴剤の使用や温泉外出等、様々な形での入浴の提案も行っている。	週3回、14時から17時まで入浴が可能でありゆっくり入ることが出来る。希望すれば毎日でも入浴出来る。入浴をしたくない人には、職員が交替したり、声かけの工夫やタイミングを工夫する他、近くの温泉での入浴等、入浴を楽しむことができるよう支援している。	

自己 部	外海の見えるグループホームと おさい 填 自	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	一人ひとりの体調や生活習慣に 合わせ、できるだけ日中活動をす すめ、夜間安眠ができるよう支 援を行っている。 日中も個々の状況に応じて、休 息や昼寝の声かけを行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	医師や看護師と相談しながら、 服薬支援を行っている。 服薬の変更があった時には、引 継ぎ簿等に記載し、職員への周 知を図る。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽し みごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	個々の能力や適正に応じて、家 事やレクレーション活動等の中 で、様々な役割を担って頂いて いる。(台所仕事・掃除・レクの 司会・唱歌の指揮・活け花・草 刈り等…個々の得意分野が生か せるよう配慮している。)	新聞を読む、広告を見る、テレ ビを観る、ピアノに合わせて歌 う、ぬりえ、貼り絵、活け花、 縫い物、編み物、ラジオ体操、 リハビリ体操等をして楽しみ、 布団干し、掃除、食事の準備・ 後片付け、草取り、レクの司 会等活躍できる場面を多くつ くり楽しみや喜びのある日々 が過ごせるよう支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。又、普段は 行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるよう支援している	定期的な外出支援は行っている が、その日の活動や職員数で 対応できる範囲に留まり、一 人ひとりの希望に添う形での 外出支援は十分にできていな い。 地域との協力体制も無い。	毎週日曜日を外出日と決めて いる。散歩や買物、季節の花 見など、戸外に出かけられる よう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支 援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう 支援している	家族の理解を得た上で、個々の 状況に応じて、お金を所持し ている方もある。 時に、近くの商店等で買い物 の機会はあるものの、職員の 買い物代行がほとんどであり、 使用機会は限られる。		

自己	外部	見えるグループホームのおこい 填 自	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人用電話や公衆電話の設置は無く、自ら電話をかける機会はない。希望があれば(家族と相談した上で)施設の電話で取り次ぎを行う。 手紙のやりとりは年賀状のみとなっている。			
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた絵や制作物の展示を、行っている。 東棟・西棟で、対称の作りになっているため、時折、反対の棟で迷われる方もいる。トイレの照明(センサーにてON・OFF)についても、スイッチを操作しようと、悩まれる方がいる。	共用空間は明るく、広く、海が眺められる。テレビやテーブル、椅子、ソファが配置してあり、壁面には、季節感のある利用者の作品が飾ってある。キッチンからは調理の音や匂いがして生活感もあり、五感刺激にも配慮してあり、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫できている。		
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの場所ですごされているが、一人ひとりの定位置がだいたい決まっている。 利用者同士の力関係の中で、遠慮したり、気をつかったりする様子も見られ、配慮が必要。			
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にできるだけ馴染みのものを持ってきて頂くよう声かけはしているが、スペースや準備の関係等もあり、限られている。 (それぞれの居室で異なる)	小タンス、椅子、テーブル、衣装ケースなどを持ち込み、人形や家族写真、カレンダー、花鉢、時計などを置き、本人が安心して過ごせるよう支援している。		
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内ではバリアフリーですごしているが、外出時、小さな段差でつまづく、階段の登り降りが難しい等の状況がみられ、バリアフリーが機能低下につながるような支援が必要と思われる。			